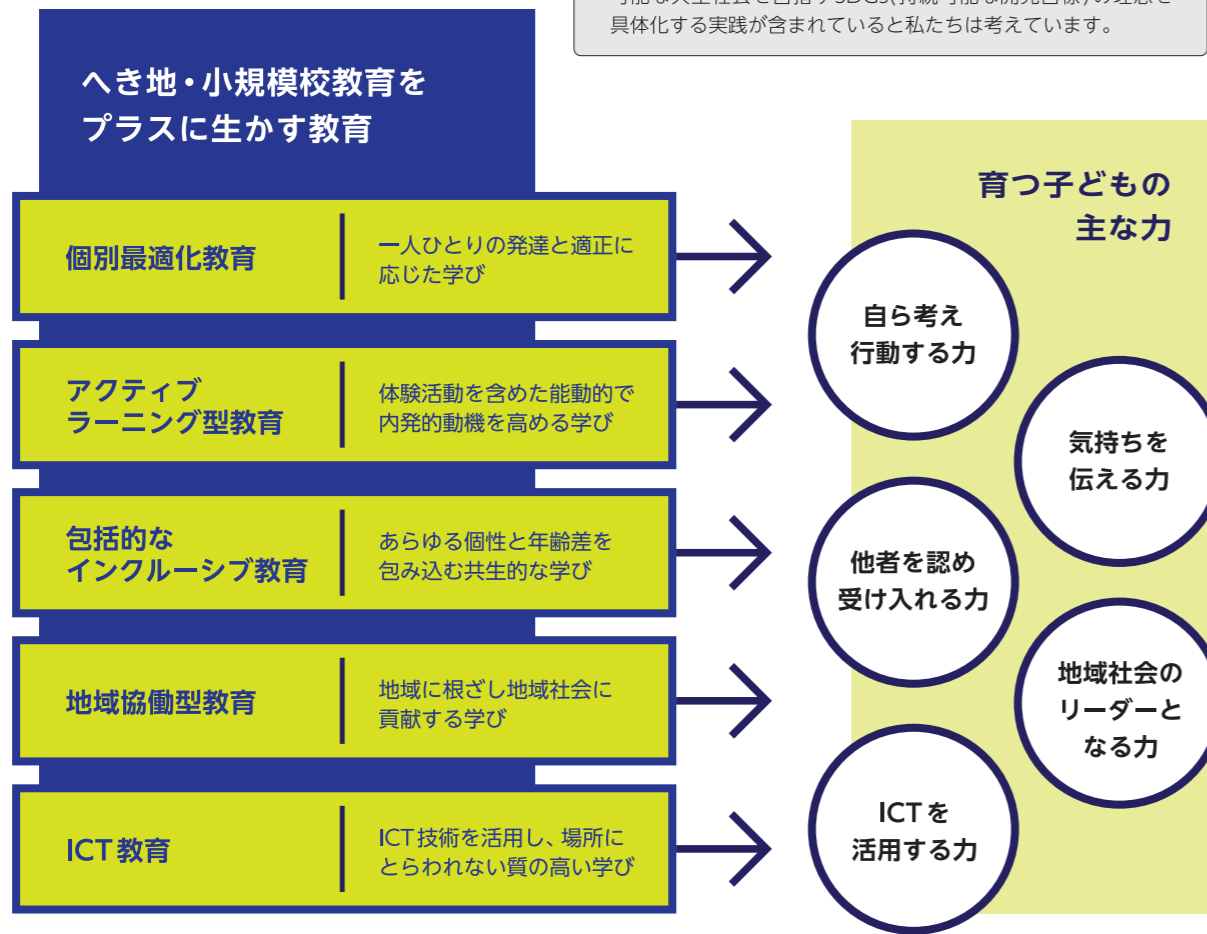


へき地・小規模校教育が先取りする 次世代型人材育成の基本的方向性

- ★ 少人数の環境をプラス面として生かし、次世代に求められる個別最適化教育を先取りする
- ★ 間接指導をプラス面として生かし、自己学習方法を発展させ自己教育モデルを先取りする
- ★ 他者との密接な関わりをプラス面として生かし、多様性を認め互恵するインクルーシブモデルを先取りする
- ★ 地域との密接な関係をプラス面として生かし、コミュニティスクールの実質的なモデルを先取りする
- ★ 日本のへき地教育の国際的水準の高さをプラス面として生かし、開発途上国への国際社会貢献モデルを先取りする

へき地・小規模校教育の理念と方法は、「誰も取り残さない」持続可能な共生社会を目指すSDGs(持続可能な開発目標)の理念を具体化する実践が含まれていると私たちは考えています。



全国的な 少子化・小規模校化時代の 学校の展望



お問い合わせ

北海道教育大学 学務部 地域連携推進室

〒002-8501 北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1-3

Tel. 011-778-0890 Fax. 011-778-8376

E-mail. crc@j.hokkyodai.ac.jp

国立大学法人 北海道教育大学

へき地・小規模校教育研究センター 公式サイト > https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/

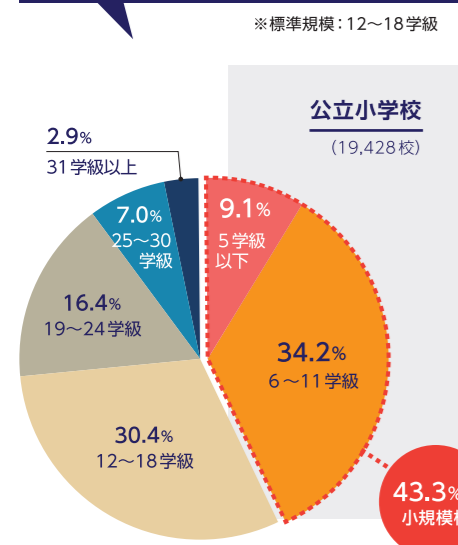


個を見つめ、 集団との関係性を高め 未来に向かう力を伸ばす。

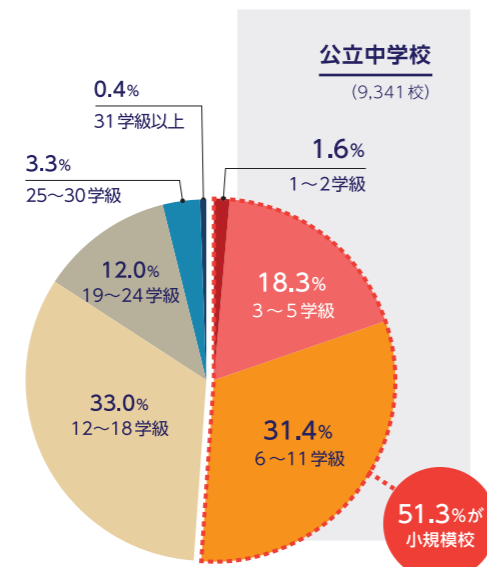
今、日本の学校教育の過半数になりつつある小規模校。「個」に応じた充実した指導、地域資源を生かした体験活動、複式教育、間接指導による自ら考え問題を解決する力の育成など、小規模教育ならではの可能性に注目が集まっています。

◆全国の公立小中学校のうち、およそ半数が12学級に満たない「小規模校」であり、小学校約13%、中学校3%が2個学年以上の生徒が一つの学級で学ぶ複式教育を行っています。

学級規模別 学校数 (割合)



出典：平成30年度 文部科学省「学校基本調査」より



センターの 役割



へき地・小規模校で 活躍する 若手教員の養成

教員養成課程の学生に対し、へき地教育の理論的講義やへき地校体験実習を通じて、へき地教育に深い知識と高い実践力を持った学生を育成。へき地教育の担い手を広げていきます。

少人数教育の 先端研究・ 指導法の開発

少人数を生かした「アクティブラーニング型教育」や子ども同士が教え合う「間接指導」などの自立型教育を研究。地域と一体となり地域特有の素材を活かした「地域カリキュラム」の開発にも取り組んでいます。

少人数教育に 対応する教員の 資質向上

少人数学習指導方法を応用できる教員の育成を目指し、セミナーやフォーラムの開催等を通して継続的な学びの機会を提供。少人数教育に関する相談も受け付けています。

教育委員会・ 学校への貢献

小中学校の現場職員に対し最新の小規模教育に関する研修や講習を提供。さらに教育現場とともに研修資料の共同開発を行うなど、今のニーズや状況に即した小規模教育のあり方を現場とともに研究しています。

地域協働型 教員養成 プログラム

地域と連携できる人材を養成する大学向けプログラムを提供しています。学校と地域が一体となって学校運営を行うコミュニティスクールの中心となる人材が、このプログラムから多数創出されています。

FDを通じた 全国の大学教育への 波及

大学教員を対象とした少人数教育・へき地教育に関する研修を実施。大学に出向き教員や学生を対象にした出前講座等を実施しています。

へき地教育の 国際社会貢献

研究により培われた先端的な小規模教育の考え方や手法を、主に開発途上国に対して提供。現地に出向いた指導やセンターでの研修の受け入れを通して、これまで30カ国以上に支援を行っています。

皆さんが参加・協力できる活動例 ↓

1. 学生のへき地校体験実習参加と受け入れ協力

教職を目指す学生が、実際にへき地・小規模校に出向き小規模教育を学ぶ実習です。個々の子どもたちの理解度を教師が把握しながら、子どもの発言を丁寧に拾って進められる少人数ならではの授業や、複式学級において子どもが子どもに教える「間接指導」の良さなどを体感し、学生たちは「教育の原点」に気付いていきます。



2. 全国大学のFD研修・講座への参加

日本教育大学協会に加盟する国立教員養成系大学・学部や私立大学等がネットワークを構築し、大学間でへき地・小規模校教育に関するFD(※)を行っています。(各種研修会、出前講座、大学間視察)

※Faculty Development の略で教育内容・方法等の研究や研修を大学全体として組織的に行うこと



3. 学校教育研修・学校現場研修への参加・協力

学校教員向け、管理職向けの研修・講座に参加し、その成果を学校に持ち帰り現場で共有できます。北海道教育大学と北海道立教育研究所は、現在協働でへき地教育研修講座を開設しています。



4. へき地教育推進フォーラムへの参加・協力

大学間や地域の研究センター、全国へき地教育研究連盟等とも連携して開催する様々なへき地教育推進フォーラムに参加できます。へき地・小規模校教育の先端研究成果の発表や実践的活動報告、会員間の交流の場として毎年たくさんの研究者や教員が参加しています。



5. SDGsに向けた、国際貢献活動への協力

近年、JICA等を通じて「日本の小規模教育を学びたい」という開発途上国の要望が多く寄せられています。これまでの研究成果や実践事例を存分に活用しながら、それぞれの国の現状に即した現地指導研修や研修生の受け入れを行っています。研修後、参加国では少人数授業の指導法や複式学級の運営方法など日本式



指導法が導入され、着実に成果を上げています。こうした研修で得られた知見や成果は全国の大学に共有しています。

6. 研修資料の開発、紀要への投稿

へき地・小規模校教育に関する研修資料を、センターと各教員が協力して開発することが可能です。また、センターが毎年発行する紀要「へき地教育研究」に、研究者・教育者であれば投稿することができます。へき地・小規模校教育の専門誌として定評がある冊子です。

